

科目名	環境放射線科学 I			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 鈴木崇彦 教授 岡本孝英 教授 富沢比呂之			配当コース	診療放射線コース	科目ナンバー	T3C113
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	原子力発電所事故を契機として、放射線を専門とする職業人には、放射能汚染がもたらす社会への影響に関する情報発信が求められている。社会に対する放射線の影響は、人体や環境などへの直接影響した結果に加え、必ずしも実際の放射能、放射線に基因しないものなども関与している。本講義では、環境放射線の状況調査や、線量測定などの解析を通じ、放射線影響について、一般社会への正しい情報発信の重要性と必要性を修得する。						
授業の到達目標	①官公庁から公表されている福島県内の放射線量、健康影響などの状況についての情報を収集整理し、事故の影響を総合的に説明できる。 ②実際に現地の放射線量の測定、住民との意見交換などを通じて、このような事故時に放射線の専門家に期待される役割について考察できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	鈴木 崇彦	教授	環境放射線の人体影響について説明できる。			
	2	鈴木 崇彦	教授	環境の放射能汚染がもたらした影響を、住民および一般住民について説明できる。			
	3	鈴木 崇彦	教授	低線量被ばくの人体影響と、LNT仮説について説明できる。			
	4	鈴木 崇彦	教授	公表されている福島県の環境放射線、被曝状況についての報告書から、原発事故による放射能汚染の全体像を把握し説明できる(1)。			
	5	鈴木 崇彦	教授	公表されている福島県の環境放射線、被曝状況についての報告書から、原発事故による放射能汚染の全体像を把握し説明できる(2)。			
	6	鈴木 崇彦	教授	公表されている福島県の環境放射線、被曝状況についての報告書から、原発事故による放射能汚染の全体像を把握し説明できる(3)。			
	7	鈴木 崇彦	教授	公表されている福島県の環境放射線、被曝状況についての報告書から、原発事故による放射能汚染の全体像を把握し説明できる(4)。			
	8	鈴木 崇彦 岡本 孝英 富沢比呂之 教授 教授 教授		環境放射能、人体の放射能汚染の実際の測定方法について学ぶ。また、政府機関が定めた線量限度、食品の放射能限度について、その数値の出された背景や根拠について討論できるⅠ。			
	9			環境放射能、人体の放射能汚染の実際の測定方法について学ぶ。また、政府機関が定めた線量限度、食品の放射能限度について、その数値の出された背景や根拠について討論できるⅡ。			
	10			環境放射能、人体の放射能汚染の実際の測定方法について学ぶ。また、政府機関が定めた線量限度、食品の放射能限度について、その数値の出された背景や根拠について討論できるⅢ。			
	11			福島県産農産物について、風評被害の実態についての情報を分析する。事故から7年以上の年月が経っているが、環境や農地の汚染状況はまだ回復途上である。そのような状況の中で、農業生産などの経済活動に対する影響を調査、分析して発表し討論できるⅠ。			
	12			福島県産農産物について、風評被害の実態についての情報を分析する。事故から7年以上の年月が経っているが、環境や農地の汚染状況はまだ回復途上である。そのような状況の中で、農業生産などの経済活動に対する影響を調査、分析して発表し討論できるⅡ。			
	13			福島県産農産物について、風評被害の実態についての情報を分析する。事故から7年以上の年月が経っているが、環境や農地の汚染状況はまだ回復途上である。そのような状況の中で、農業生産などの経済活動に対する影響を調査、分析して発表し討論できるⅢ。			
	14			福島県に実際に出向き、環境等の汚染状況について実際に測定し、放射能の拡散がもたらした実際の影響を考察し説明できるⅠ。			
15	福島県に実際に出向き、環境等の汚染状況について実際に測定し、放射能の拡散がもたらした実際の影響を考察し説明できるⅡ。						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	公共機関が公表している原発事故関連情報を収集し理解する。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	ICRP Publicationなど、必要の都度配付する。						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート80%、授業内での討論・質疑応答20% 欠席は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。8回目以降は討論や発表があるので、その準備をしておくこと。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						